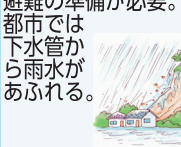
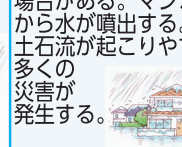


雨の強さと降り方、災害発生の目安

1 時間雨量 (mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
予報単語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受ける イメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返した ように降る	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫 感があり、恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで 足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内（木造 住宅を想定）	雨の音で話し声がよく 聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川ようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が 悪くなる	
車に乗って いて		ワイパーを速くしても 見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じ ブレーキが効かなくなる (ハイドロプレーニング現象)	車の運転は危険	
災害発生 状況	この程度の雨でも長く 続くと注意が必要。 	側溝や下水、小さな川 があふれ、小規模の がけ崩れが始まる。 	山崩れ・がけ崩れが起き やすくなり危険地帯では 避難の準備が必要。 都市では 下水管から雨水が あふれる。 	都市部では地下室や地下 街に雨水が流れ込む 場合がある。マンホール から水が噴出する。 土石流が起こりやすい。 多くの 災害が 発生する。 	雨による大規模な災害 の発生するおそれが強 く、厳重な警戒が必要。 

大雨の際の危険箇所

◇地下室

大雨のときは危険なので、早めに避難しましょう。

- ①地上が冠水すると、一気に地下の方へ水が流れ込む。
- ②浸水すると電灯が消え、エレベーターも使えなくなる。



- ③流れ込む水圧で、ドアが開きにくくなる。

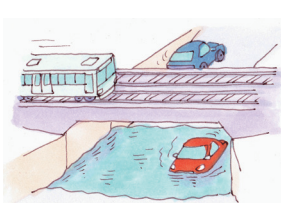


- ④地下では地上の様子がわからない。



◇アンダーパス

鉄道の下など路面が低くなっているところは、水がたまるおそれがあるので、車で入らないようにしましょう。浸水・冠水の危険を感じたら、速やかに車を高台に移動させましょう。



◇川

急に空が暗くなり、雷が聞こえ始めたら、急激に増水するおそれがあるので、川に近づかないようにしましょう。

風水害から身を守るには(日頃の備え)

台風や豪雨は、正確な気象情報を収集し、早くから災害に備え安全対策をすることで、被害を最小限にとどめることができます。台風や豪雨が迫ってからの対策は危険です。日頃から周囲を点検し、自分で改善できないことは専門業者に相談するなどして、浸水や強風に備えておきましょう。

【家屋のチェックポイント】

◇ベランダ

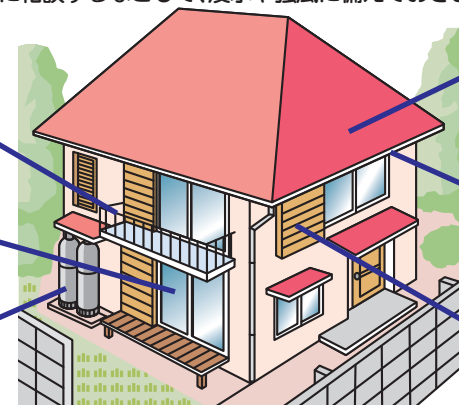
- ・強風に飛ばされそうなものは置かない

◇窓ガラス

- ・ひび割れ、破損、ぐらつきがないか確認する

◇屋外の設置物

- ・プロパンガスのボンベや物置等はしっかり固定する



◇屋根

- ・かわらやトタンのひび割れ、ずれをなくす
- ・アンテナをしっかりと固定する

◇雨どい・排水溝

- ・つなぎ目ははずれ、塗料のはがれがないか確認する
- ・土砂や落ち葉で詰まらせないように掃除しておく

◇雨戸

- ・がたつきがないように補強する

洪水発生時における避難の心得

正確な情報収集と早めの避難

台風の接近や大雨の予報などがある場合は、テレビ、ラジオなどの最新の気象情報に注意しましょう。また、夜間や降雨時の避難が困難であったり、危険が伴う場合があるので、早めの避難を心掛けましょう。



非常持出品を忘れずに

台風の接近時など、災害の発生が予想される場合は、非常持出品に加えて、自分や家族に必要な生活用品や食料を用意して避難するようにしましょう。



避難時は戸締りや火の始末

避難時には火元を点検し、電気のブレーカーを切り、戸締りをするようにしましょう。



可能な範囲で協力、集団での避難

単独での避難は事故にあったときに非常に危険です。複数人で避難するようにしましょう。また、隣近所で声を掛け合い、高齢者や身体の不自由な方、子どもなどの避難に可能な範囲で協力しましょう。



危険な場所は避けて避難

ガード下やがけ地、堤防などを通るのは危険です。近所であっても避けましょう。橋については十分安全を確認してから渡りましょう。



足元を確認しながら避難

冠水した道路は足元が見えないため危険です。道路の端を通らないようにし、傘や長い棒などで足元を確認しながら進みましょう。



万一避難が遅れたら…(垂直避難)

道路が冠水している場合や夜間などで外に出ることがかえって危険な場合は、自宅や近くの頑丈な建物の2階以上や山側から離れた部屋など、より安全な場所へ緊急的な避難をしましょう。また、こうした危険な状況になる前に、早めの避難を心掛けましょう。

